資料５

西成区の地域福祉の推進に向けた令和３年度の取り組み（重点項目）案

①【独居高齢者への支援】
②【認知症高齢者への支援】

①の「課題解決に向け取り組むべき方向性」

・「西成つながり名簿」を活用した各地域の見守り活動の後方支援

・啓発活動と関係機関との顔の見える関係づくり

①の「具体的取組」

・「見守りサポーター」について、昨年に引き続き区内６地域でモデル実施を行う。

・見守り相談室と連携し、「見守りサポーター」から得た地域情報を「西成つながり名簿」に反映させて整備を行う。

・整備した名簿情報は、必要に応じて地域の見守り活動にフィードバックする。

②の「課題解決に向け取り組むべき方向性」

・認知症サポーター養成講座の開催と活動の後方支援

・啓発活動と関係機関との顔の見える関係づくり

②の「具体的取組」

・オレンジサポーター、オレンジパートナー企業の活動（６月時点で登録数10件）を周知しながら、認知症の方への支援につなげる。

①及び②の「めざす姿」

・「西成つながり名簿」を活用した、地域実情に応じた見守り活動のきっかけづくり

・地域の認知症対応力の向上及び見守りサポーターなど、地域協力者の発掘と確保

・モデル実施状況を検証し、見守り体制の強化のため次年度の取組みに反映させる。

③【複合する課題を抱えた世帯への支援】

③の「課題解決に向け取り組むべき方向性」

・「つながる場」の充実と、地域での住民主体の「かけはし」の構築と定着

③の「具体的取組　*課題を抱える世帯の早期発見やSOSを発信しやすい環境づくり*

・事業開始より３年目となり、積み上げた事例をもとに、各課との更なるスムーズな連携が可能となるように、保健福祉課職員への研修を実施する。

・各地域で開催される会議等に出席し、地域福祉計画とともに「つながる場」を周知する。

・地域と情報に精通している見守り相談室を通じて、対象世帯と地域関係者がつながる様に連携する。

③の「めざす姿・取組指標」　*アンケート結果（資料6-2①②）*

・参加者の全員より「今後の支援に活かせる」との回答あり、引き続き、専門職だけでなく地域関係者も含めた連携を図り、効果的な状況を継続する。

・参加者アンケートの実施から、「見守り相談室のCSWを通じた地域とのつながりづくり」及び「地域に日常的な見守りを依頼・強化するための具体的な協力体制づくり」がそれぞれ６０％以上と関心が高く、今後見守り相談室と連携し、支援を必要とする人の早期発見や地域で孤立化しない仕組みを検討する。